

令和5年度 信学会東堀こども園 「自己評価および園関係者評価」

1. 園の教育目標

園の中心テーマ「子どもたちの笑顔があふれるこども園」

サブテーマ「子どもが『考え、集い、より良い生活・遊びをつくりだせる』園を目指して

- ・信学会の教育理念「子どもたちの主体的な学びと、他者との関わりで生まれる経験を通じて、生涯にわたり自ら学び続ける人間を育てる」

2. 本年度の重点目標

- ・思いやりをもって、「ひと・もの・こと」と関わり、友と伝え合う活動
- ・よく考え豊かに創造して表現し、自分らしさを発揮する活動
- ・生活と関わらせた、野菜などを育てていただく食育の活動

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	A	B	C	D
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。 朝会等で信学会の方針に基づき、具体的に目標や改善点を示し周知しているか	11	7	1	
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。 会合・行事や園内研等を通して、具体的な方法を試行錯誤し改善に向けているか	13	5	1	
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	14	3	2	
	・コロナ感染対策を行い、日常の換気・消毒・感染リスクの低下を図っている。	15	3	1	
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	15	4		
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。 朝会や週案等を通して、日常的に方針を示し課題に対しての指導を行っているか	16	2	1	
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。 職員の減少に対し体制づくりの工夫改善や主任との連携を図って対応しているか	6	5	8	
研修(資質向上への取組)	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施、 日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	10	5	4	
	・週案を通しての自己の振り返りや係、行事等での課題を明らかにし改善しているか	12	6	1	
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	16	3		
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。 「子どもの笑顔があふれる園」を目標に、行事・活動・園内展示等を行っているか	9	10		
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	13	5	1	
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。 ノントンの日を中心に「園公開」をして地域の未就園児等と交流を行っているか	5	14		
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	18	1		
	・レーザーキッズを通して、園児の把握や情報発信等を積極的に行っている。				
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会(モニター会)等で定期的に懇談会を実施している。	9	6	4	
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	0	11	8	
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	11	8		
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。 年齢や子の課題に応じて、場所や機会を工夫改善し子どもの成長を図っているか	15	4		

4. 学校関係者評価委員(モニター)からの評価

- 幼保小の連携が進んでいる点が良いとして出された。特に年長の公開保育参観では、「年中との交流」「平仮名の体験」等小学校とのつながりを評価していただいた。今後さらに、異年齢交流等を行いたい。
- 「職員数の減少と多様な支援」が大きな課題となった。子どもの人数からの定員数は説明したものの、開園から5年間の職員数(各クラス2名)が「本年度の減少」に感じられたと思う。しかしながら、

- 地域における保護者との連携や子育てニーズの把握は職員からも「出来ていない」の評価である。本年度、「園公開・園開放」ともに行ったが、今後更なる地域への発信と園開放が必要であり、子育て支援の機会や場を設けていく必要がある。
 - 「事故・怪我の減少」について、子ども同士の関わり合いの良さが結果として出ている点が評価された。一方で、その事故・怪我の内容の具体性が分からぬ点が指摘された。今後「写真※個人情報に配慮」等で対応する。
 - 先生方が工夫して子どもたちと活動づくりや行事「運動会」をつくっている事が十分わかってきた等の意見が多く、「子どもの考える力」が育っている事が評価されてきた。今後も継続したい。
 - 地域との「子育て支援」の事について、本年度新たな事業「絆アート」を行い、主任児童委員さんとの連携を図った事は好評であった。今後も地域の子育て団体との連携を進めたい。東堀区との連携を進めたらどうか。
 - 園の特色ある活動「専科」「わくわくの日」は、園の「教育（幼稚園面）」の充実となっている。今後もさらに継続発展したい。今後、保護者にも公開していくとその良さが伝わるのではないかと。
 - 職員数の減少の点が気になった。基準には達しているとの話であるが、子どもは活動的で全園児を把握できるわけではない。また、さらに先生方の負担を増やさず園の運営を高めていくためには必要な職員は確保して欲しいの意見があった。本部と連絡連携して今後を改善したい。
5. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題
- この6年目の園運営について成果と課題を具体的にいただいた。特に、開園以来園運営の中心にしてきた「子どもの主体的な学び（考える力の育成）」は、多くの子どもの姿で実現され、保護者アンケートでは、「我が子の成長に驚いた」等の喜びの声となって書かれている事が大きな成果となった。また、課題では、コロナ禍からの新たな事業として「地域との連携や子育て支援」を行ってきた。園開放は少しずつ効果が出ているが、子育て支援は試行錯誤の連続で課題が多い、今後「年長児とその保護者を対象とした子育て支援」や地域の関係団体との連携を図りたい。
 - 園全体の運営や保育・行事等で育っている子どもの姿の向上（元気な姿）等の意見をいただいた。また、年長の公開保育（異年齢交流）を参観いただき、「小学校接続」に繋がっているとの意見があった。今後も小学校との連携を図り、園で育った力が小学校へ連続してつながるように工夫改善を行いたい。また、「子育て支援」についても、小学校施設や授業の様子を参観、配慮を要する園児の情報交換等の場を多くしたい。
 - 職員体制についての意見が出された、基準は満たしているものの「更にきめ細かな支援や質の高い保育」を行う上での要望である。今後、園内体制づくりの工夫改善や以上児における「主体的な保育の充実」を推進する中で、要望に応えていきたい。
 - 本園の特色ある行事や活動についての評価が高かった。特に「わくわくの日」は、子ども主体の遊びづくりや異年齢交流が実現している点が評価された。この文化を大切に更にもっと子どもが遊びを通して「育てたい十の姿」が実現するように企画、環境構成、素材の吟味等の研究を深めたい。
 - 本年度地域への情報発信や園公開・園開放を行った。地域の未就園児やその保護者が参加し、好評を得た。また、子育て支援にもつながってきている。今後も年間計画に位置付け、多くの地域の方や未就園の保護者に伝わり、参加者が増えるように努力したい。